

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200328		
法人名	株式会社 結愛サービス公社		
事業所名	一戸町高齢者グループホーム		
所在地	〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸田中72番地1		
自己評価作成日	平成22年2月14日	評価結果市町村受理日	平成22年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373200328&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成22年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は町の第3セクターということもあり、行政との連携が取れていると思います。また、近隣には保健センターや県立病院があり、保険、医療、福祉の福祉ゾーンが形成され利用される方々ご家族にも、安心して利用できる環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第三セクターである株式会社結愛サービス公社が運営する事業の一つであり、立地的にも一戸病院や町の総合保健福祉センター(社会福祉協議会が同居)が連立して、新興福祉ゾーンを形成する地区にあるため、利便さと安心感が得られる環境である。公社という利点を活かした協力関係構築が可能になっており、行政機関・町民との連携も深まっている。利用者と家族と一緒に過ごす場面を重視するなかで、受診やその他の外出などの依頼に家族も応えているほか、家族からも率直な意見を得ていきたいという姿勢が明確である。管理者、主任を中心として職員も相互協力関係を築いており、今後の取り組みとして利用者の内的世界の理解、重度化への対応等に力を入れていく他、緊急時対応や感染症・食中毒対策、防災など、実践性の高い取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名：一戸町高齢者グループホーム

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の唱和を毎朝行い、日々その意味を念頭に置き、支援を行っている。実践においては、利用者本位・思いやり・楽しい生活」に重点を置き、事業所の目標として取り組んでいる。	公社の経営理念と行動指針があり、指針を基に事業所独自の介護理念を定めている。グループホーム会議で1年間を振り返り、不足していたと思われる事項を次期1年の介護理念に定めて実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣では町内会活動が盛んでないため、自治会への加入等の取り組みは難しいのが現状。しかし、会社として夏祭りや敬老会等の催しを企画・開催することで地域住民が参集できる機会を作っている。	地区には民家が少なく、同法人の運営する他の事業所をお隣に見立てて利用者との交流を進めている。法人で企画する夏祭り等では送迎車やヘルパーカーにポスターを貼ってPRし、広く町民との交流を図っている。	事業所の立地環境から、一般的な地域交流は難しい側面がある。利用者にとってのご近所さんが現実的にどのような人達なのか、既成概念にとらわれることなく交流の視点を模索していってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターからの施設見学の依頼、地域の中学生や小学生の見学、ボランティア活動等があり、地域の中に少しずつグループホームの存在が、認知されてきていると感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やヒヤリハットの報告を積極的に行った結果、民生委員や家族代表からの理解や応援を頂けた。また、災害時の避難訓練に対しても意見やアドバイスをいただき、サービス向上へと活かしている。	ヒヤリハットの対応状況を報告することにより、委員はじめ利用者、家族等に理解と安心感を与えることにつながった。地域代表者である委員がLPガスの安全について講義するなど運営推進会議が有意義に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の第3セクターということもあり、行政との関わりについては密接に行われている。介護認定等の更新についてもすぐに対応していただいている。また「夏祭り」についてもご協力いただいている。	町の健康福祉課、社協、包括の担当者が運営推進会議の委員であることに加えて、公社と言う利点を活かした協力関係構築が可能になっている。また、公社の企画する夏祭り等への協力、ボランティアの受け入れにより行政機関・町民との連携も深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアル及び身体拘束排除宣言を作成、掲示し日々の支援に取り組んでいる。	身体拘束排除宣言をして掲示すると共に、拘束をせずにケアや身体拘束体験の報告等について研修し、共通理解と実践に取り組んでおり、結果、言葉掛けに注意し、職員優先(業務優先)から対話重視に変化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進員による高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。今後も継続して虐待防止の徹底を図っていく。		

評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の福祉センターとの連携が取れているため相談できる体制が取れている。日頃のケアについては、認知症高齢者自身の自尊心を尊重しながら本人自らの意思を表明するよう支援することを心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの時点で施設見学を行うことや、概要を説明している。また、施設利用におけるメリットやデメリット、家族への協力依頼等も説明し納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見箱を設置したり、直接家族からご意見を頂くよう努めている。家族からのメールでの問い合わせなどにも随時対応している。	「ゆうあいだより」を発行して情報交換の機会としているほか、口頭での要望・意見に対する対応を併記して玄関に貼り出している。家族からの利用者の状況伺いメールにもコメントし、家族との信頼関係構築に役立っている。	玄関にはこれまで家族から寄せられたもので、苦言も含めての様々な意見が貼られており、「なんでも言ってほしい」という事業所の姿勢が感じられる。今後も積極的に意見を得ていく取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社への提言箱(社長取り扱い)を設置している。また、社長との直接面談を行うシステムを設けている。	社長との面談で個人的な意見を述べるができるほか、業務改善事例発表会等の機会が設けられている。また、ケア会議やグループホーム会議で提案や意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間、諸手当等については就業規則に則り運営している。また、やりがい等については、事業所目標、個人目標を設定しており、その目標の達成に向け伸張できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の方針として会社内外の研修を組織的に取り組んでいる。社内研修は研修委員会、社外研修は看護・介護部長により計画的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、協会が主催する研修や定例会等々へ参加することで、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの際に家族からの事前の情報を収集し、可能な限り本人との面談の機会を設けるようにしている。利用契約をする前にも事前調査を実施するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、契約の際には事前に時間や場所の調整を行い、十分な時間をかけて説明し納得していただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人の状態や家族の状況をよく把握・分析し、当グループホームでの対応が難しい場合は、他事業所や担当ケアマネとの相談も行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を常に考え、生活の再構築を目的とし、出来る事はやっただく。日常生活の全てが機能訓練になると考え支援を行っている。職員が人生の先輩から学ぶ姿勢で支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や薬取りは可能な限り家族にお願いをしている。また、面会だけでなく、手紙や電話での交流を含め、家族との繋がりが切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子や孫の写真を生活の場に取り入れたり、以前利用していたデイサービス等の馴染みの場所へ散歩に出かけたりしている。	運動不足解消のため隣の「結愛ホーム」をご近所と捉え、ラジオ体操に参加したり散歩や遊びに利用している。デイサービス等には、本人の利用当時の職員や顔見知りもおり、覚えていてくれることに喜びを感じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、その時の気持ちを見極め、職員が仲介役となり、利用者同士が良好な関わり合いを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でも、その家族や利用者から相談を受けたり、助言を求められる場合には協力する姿勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所目標の中にも、利用者本位の支援を入れ努力している。意思表示が困難な場合は、本人の内的世界を理解しようと努力している。	センター方式の様式を用いたアセスメントに取り組んでいるが、積極的な話しかけや対話時間を増やすことで、少しの変化も見逃さず本人の意思を汲み取ろうとする職員の意識が生じてきている。	アセスメント手法の検討は、職員と利用者の関わりにおける直接的な変化が意図されており、有効と思われる。職員もその意義を理解してきており、今後も継続した取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネを中心に毎月2回、ケア会議を開催し、利用者一人一人について話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の出来る事を日常生活の場面から見つけ出し、それが継続できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子や行事などの機会を利用し、本人や家族、関係者からの要望や助言を頂き、ケアプランに反映するよう努めている。	サービス検討会議で、アセスメント表やケアチェック表での状況確認とともに家族の思いや意見、職員のアイデアを計画に反映させている。また、ケア会議予定表を作成し、目標期間中には必ず見直しを行なっている。	計画の評価において、本人の不満足感は職員が代弁し率直に表されており、それが支援内容の継続や工夫の大きな根拠となっていくと思われる。今後も利用者の気持ちに合った計画検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録(ケアチェック項目)から見えてくる支援をケアプランに活かし、より良い援助が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望で、急な外泊や外出にも対応している。また、敬老会に着物で参加したいとの要望があった時にも、着付けのお手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に協力の依頼や情報提供を行っている。また、運営推進会議などを話す機会を設けることで、民生委員や包括支援センターとの協力も取れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先に行っている。	できるだけ利用者に面会してもらうため通院を家族に依頼、理解を得ており、受診者の情報を記した主治医宛の手紙を情報提供書として渡している。一戸病院の医師が嘱託医になっており、医師との連携も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師の訪問が毎日(夕方)あり、利用者の様子を報告し、助言頂いている。緊急時の相談にも応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との会議を毎月1回行い、情報交換や意見交換、グループホームの説明などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内において、ターミナルケアに関する勉強会を行った。看護スタッフの協力もある為、出来るだけ本人や家族の希望に添った支援をするよう努力している。	地域内の機関では「グループホーム利用は歩ける人」との認識に基づいてサービス移行を進めているほか、家族も事業所での看取りまでは考えていない。ただ日頃から「できるだけここで」との思いは感じられ、勉強会や看護スタッフ等の連携を通して希望に添った支援ができるよう努力していく予定である。	併設の特養とも連携がとれ、嘱託医とも話せる状況にあることから、対応の幅はもちやすい。要望に応じてどこまでの支援ができるのか、関係者全体で話し合い対応方針の共有を図っていくことが大切であり、今後の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備している。また、社内研修での救急講習(心配蘇生法)にて実践を想定した訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害の災害マニュアルを作成している。また、避難(通報)訓練も日中帯・夜間帯と行っているため、今後も継続していく。	消防職員による講演会、隣接事業所との合同訓練等で災害時における職員の対応力向上に努めている。また、災害用伝言ダイヤル(171)の基本操作方法、活用方法も練習・検討中である。	夜間や地震想定など災害想定はきめ細かく、夜も併設・隣接施設の人員も協力体制にあるなど、利用者にとっての安心感が高い。今後も実践的な災害時対策の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成するなどして常にプライバシーには細心の注意を払っている。申し送りや電話対応時にも、注意するように努めている。	朝のミーティングは見守りをしながら行っているが、職員の気配で自分のことと察する利用者もあるため、個人情報に関わる話題には利用者の名前を出さないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望や要望を引き出すよう努めている。また、希望や要望があった場合には、可能な限り達成できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人を中心とした生活、自己選択・自己決定が出来るよう支援している。「個性」を大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や家族からの要望を踏まえて、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。理容・美容に関しても希望に合わせて、店や髪型を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士のメニューを基本として、利用者と職員が協力して食事の準備や後片づけを行っている。	収穫できた果物を他の事業所に配ったり、畑で採れた野菜を使用したり、流しソーメン等季節ごとの行事食を楽しむほか、自分たちで弁当をつくることもあり、普段介助の必要な利用者も楽しければ自分で食すなど食事が楽しみにつながるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、職員側の声掛けで水分量が確保できるよう支援している。また、食べる量は一人一人に合わせた量を把握し支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や虫歯、義歯の劣化(不具合)などに気をつけて口腔ケアに努めている。ハイジニスト協力も得ながら努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムに合わせて誘導・声掛け等の支援を行っている。排泄の失敗があった場合でも、本人を傷つけないよう言葉掛け等配慮している。	居室にトイレがありプライバシーは確保しやすい。無理はせず、利用者一人ひとりのパターンに合わせて誘導するほか、一人ひとりの能力に応じて、トイレでしている感覚を持てるようにとの思いで適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方については、医者や家族と相談して、薬や補助食品等に対応している。また、運動不足解消（機能訓練）の為、朝ラジオ体操を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後としており、希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。毎日全員のバイタル測定は行っているが、入浴者については入浴後に再度バイタル測定を実施している。仲の良い利用者同士入浴することもある。	入浴に積極的な利用者が多く、毎日入る人は3名程で、他は一日おきに入浴している。入るまでがおっくうな人でも声かけを工夫したり、入浴剤などで色を変えると気分も変わり、なかなか出たがらないほどに入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の歌番組やニュースを見る方や早起きして朝食の準備をする方など、就寝・起床時間は個々に応じて支援している。明かりがなければ寝付けられない方などにも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の種類・用法・用量についても、スタッフがすぐに確認できるようまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自己実現の要求を理解し、会話の中からヒントを得ながら個別的な楽しみや役割、集団でできるもの等を実現できるよう支援している。掃除や食事準備、買い物、畑仕事など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望や買い物の希望があった時は可能な限り対応している。（別棟にあるマッサージ機の使用など）また、お盆やお正月、地域のお祭り等々、出来るだけ希望に添えるよう、職員と家族が理解し協力し合い実施している。	買い物や地域のお祭り見物、施設周辺の散歩やデイサービスのマッサージ器の利用等、個別の外出や自立維持のための支援を体調等を見ながら行なっている。また、夏祭り等行事への参加は職員の対応に加えて、家族の理解、協力を得て同行してもらおう等の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しあい、本人が所持する金額を決めている。施設の自動販売機や訪問販売(ヤクルト・パン・理髪等)で利用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設内から電話をかけれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く談話コーナーが配置されゆったりとした空間がある。天窓からの採光も良く、全体的に清潔で皆が心地良く集える空間作りに心がけている。床下温水暖房方式で床下全体を暖め、暖まった空気が吹き出口を通り室内を循環し穏やかな暖房効果が表われるよう工夫している。	共用空間である広間は、木造で天窓からの採光も良く明るく広い。食堂や談話スペースとしての機能を有し、テーブルやゆったりと過ごせるソファ、畳敷きの小上がり、大型のテレビがあり、利用者が思い思いに過ごしている。折しも調査日は雛祭りの前日、畳敷きの小上がりには、職員の私物と言う雛飾りが飾っており、季節感や家庭的雰囲気づくりへの配慮と利用者の笑顔があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で食事が出るようテーブルの位置を工夫したり、共有スペースには出来るだけ日常生活や行事の思い出の写真を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしていたものや使い慣れた物、慣れ親しんだ物を持ち込んでいただき、自由にレイアウトしている。寝床もベッドがよいか、畳に布団が良いか本人の希望を優先に考え、今までの生活スタイルを継続できるように工夫している。	居室は、クローゼットスペースに狭さを感じるが、工夫により対応しており、衛生的なトイレが設置されていることは特筆できる。また、担当者から贈られた誕生日のメッセージのほか家族写真や馴染みの食堂のメニュー等が貼られ温かい雰囲気をかもし出している。	部屋にテラスがあるが転落のリスクもあるため、利用者全体としては一概に使用しにくい。対策を検討しているとのことであり、利用者にとっての心地よさをさらに高める環境要素でもあるため、今後の検討の成果に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、ユニバーサルデザインが活用され、手すりや昇降手洗い場等が設置されている。段差もない為、安全な歩行も可能であり、そのことで本人の役割も増えている。		